

りんご病 (伝染性紅斑)

「りんご病」とは、
ヒトパルボウイルスB19という
ウイルスによって伝染する感染症です。

症状

発疹で特徴的なのは、両ほほの紅斑で、いわゆる「リンゴほっぺ」になります。腕や太ももなどが発疹の出やすい所で、もやもやとした網目状となるのが典型的な発疹です。発熱することは少なく（10人に1人未満）、普段と変わりなく元気に行っていることが多く自然に治癒する良性の疾患と考えられています。年長児や成人でも、かかったことのない人は感染することがあります。

【りんご病の症状】



◀ 顔の場合
りんご病のウイルスに感染すると、両側のほおにりんごのように赤い斑点が出現する



▶ 腕の場合
ほおに紅斑が発症してから数日後、腕や太ももなどにレース網模様の紅斑が現れる

大人がかかると

成人では、関節炎が主な症状となることがあり、特に女性（お母さん）にその傾向が強いようです。「階段を登ると膝が痛い」「手がむくんで強く握ると痛い」などが主な症状で、発疹が出ない場合も多いため、原因不明とか、リウマチの疑いとか言われ、子どもの発症を契機に後で「そうだったのか」とわかる事がしばしばあります。また、まれではありますが、肝炎などの合併症（これは父親に多い）も知られています。

登園・登校はOK!

周囲への伝染予防という観点で、集団生活を休ませる必要はありません。体育やプールなども含めていつもどおりの生活を続けてかまいません。本人がだるさや発熱（発疹期の発熱は10人に1人未満）を訴えるときはもちろん休息を。

裏に続く

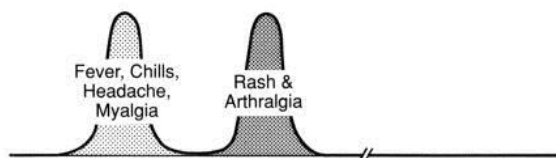
3つの特徴



①発疹出現期には、すでに感染力はありません

下の図のように、このウイルスに感染してから10日くらい経ちますと、ウイルスが血液の中に多量に出てきます。この時期は、唾液の中に混じったウイルスが飛沫として周囲に飛び、最も感染力の強い時期ですが、本人は無症状のため元気に登校・登園して、普通に生活しています。その後10日くらい経ちますと、発疹が出現し、そこで初めてりんご病だったと診断されるのです。しかし、この発疹期にはすでに感染力はないので、今更隔離しても何の価値もありません。

症状の経過



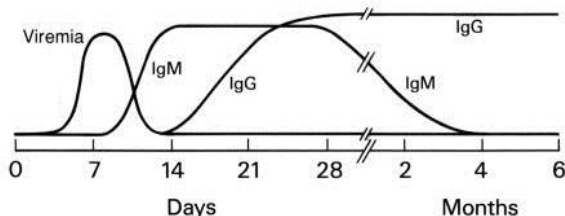
発熱悪寒頭痛

発疹・関節痛

ウイルス血症期



ウイルス量と抗体産生の経過



②慢性の血液疾患をもった人では 要注意

このウイルスは赤芽球という骨髄の中の赤血球を作る親玉の細胞に感染します。その結果、数日以上にわたって造血が、一時的にストップします。健康な人にとっては何の影響もない現象ですが、慢性の血液疾患がある人は、りんご病罹患時（特にウイルス血症の時期）に急速に貧血が進行することがあります（＝無造血危機）。遺伝性球状赤血球症などの血液の持病を持つ方にとっては、りんご病は要注意です。

③妊婦が感染すると流産の原因 になることも

妊婦が初感染すると約2割でウイルスが胎盤を通し胎児感染を起こし、そのうち約2割が胎児の貧血や胎児水腫を発症し流死産につながる場合があります。これは全初感染妊婦のおよそ4%にあたります。（全妊婦の通常の出産率は2～3%）しかし、発疹期にはすでに感染力が無いということから、注意をしようにも罹患を避ける良い方法はありません。わが子がりんご病にかかって、その時もし自分が妊娠している場合には、かかりつけの産婦人科に相談してください。